

日時 2018 年 10 月 18 日 (木) 午後 6 時～8 時

場所 文京区区民センター 3F・B 会議室

出席 11 名

「享保十四年、象が歩いた坂・峠」

講演：大谷眞範

経緯：享保十三年（1728）6 月 13 日雄雌二頭の象が長崎へ入港。出航地はベトナムの広南（現ハイフン付近）だったという。将軍吉宗が白象を欲しいといったことに始まる。幕府の権威を知らしめるため、また民へのデモンストレーションであったという。雌象は渡来から 3 か月後長崎で死亡。雄象だけが享保十四年 3 月 13 日江戸へ向けて出発した。4 月 28 日京都御所で中御門天皇が象見物（この日が象の日になった）。江戸に着いたのは 5 月 25 日、約 1390 km を 74 日かけての旅であったという。到着 2 日後、江戸城に入り将軍吉宗により象見物が行われた。象が歩いた道（長崎街道、山陽道、中国街道・京街道、中山道、姫街道、東海道）を実際に踏破した記録である。

象が歩いた坂・峠のいくつかが紹介された。

1、長崎街道日見峠

2、山陽道船坂峠・船坂 船坂の由来は畝坂で丘陵地が連なるところから。

講師出演のテレビせとうちの番組「どうよ DE ど～よ」DVD で「山陽道船坂」を鑑賞

3、本坂通り（姫街道） 象鳴き坂（浜松市）船で今切から浜名湖を渡るコースを避けて姫街道を通った。

4、東海道 薩埵峠

5、東海道 箱根峠の坂